

# 環境自主行動計画と環境会計の実績

環境保護のために中期的な目標を設定して計画的な環境保全活動を全社的に推進し、それにかかわる投資と費用、その効果について定量的な把握に取り組んでいます。

## 環境自主行動計画

評価 : 目標達成 : 未達成

環境目的	重点課題	2016年度計画	2016年度実績	評価	要因と留意事項	2017年度計画	2018年度計画	2019年度計画	
温暖化防止	生産CO <sub>2</sub> 総排出量削減	前年度比 1%以上削減	2015年度比 2.8%増加		<ul style="list-style-type: none"> <li>ライン集約、高効率機器への切り替え、蒸気ドレン回収などの省エネ取り組みにより原単位は削減出来たがそれ以上の生産量増加により総量が2.8%増加となり目標達成出来なかった。</li> <li>省エネ効果以上に想定外の工程トラブルによる生産効率の悪化および不良率の増加により原単位が悪化し、目標達成出来なかった。</li> </ul>	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	
	生産CO <sub>2</sub> 原単位削減	前年度比 1%以上削減	2015年度比 0.3%削減			前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	
	使用エネルギー原単位削減	前年度比 1%以上削減	2015年度比 0.4%増加			前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	
	物流CO <sub>2</sub> 排出原単位削減	重量原単位 前年度比 1%以上削減	2015年度比 1.1%削減			トラックなどへの商品積込みの際の荷台の充填率向上や工場配送エリアのルート合理化により目標達成	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減	前年度比 1%以上削減
資源循環	廃棄物排出量の削減	廃棄物原単位の削減	社外処理委託量原単位 前年度比 2%以上削減	2015年度比 13.3%増加		目標未達の主な要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>不良品や工程トラブルが増加し、その処理対応で廃棄物が増加</li> <li>新商品の量試(製造仕様切り替え)増加により生産効率低下も影響</li> <li>有価物で処理できていた物の産廃扱い化</li> <li>古いサンプルなどの保管品の撤去により総量増加</li> </ul>	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減
	廃棄物のリサイクル	廃棄物のリサイクル	社外リサイクル率99.0%以上	98.00%		現状では埋立て処分せざるを得ない検討中の新規材料の廃棄増加により悪化	社外リサイクル率 99.0%以上	社外リサイクル率 99.0%以上	社外リサイクル率 99.0%以上
汚染防止	環境負荷物質削減	PRTR対象VOC 大気排出量削減	前年度比 2%以上削減	2015年度比 10.4%増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象VOCを使用している品種の生産量増加の影響</li> <li>脱臭炉の脱臭性能低下</li> </ul>	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減	前年度比 2%以上削減	
									現場端材の 回収リサイクル推進
環境管理	環境保全	環境事故ゼロ	環境事故ゼロ	環境事故ゼロ			環境事故ゼロ	環境事故ゼロ	環境事故ゼロ
	環境情報開示	環境報告書作成・開示	環境報告書作成・開示	環境報告書作成・開示(冊子&Webサイト)			環境報告書作成・開示	環境報告書作成・開示	環境報告書作成・開示
	廃棄物適正処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子マニフェスト化推進</li> <li>廃棄物適正処理推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子マニフェスト化推進</li> <li>廃棄物適正処理推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子マニフェスト化推進</li> <li>排出側100%完了</li> <li>処分側は目標100%推進中</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>全製造事業所で産廃処理委託業者の排出側100%電子マニフェスト化推進</li> <li>4事業所に対し廃棄物管理監査を実施</li> <li>届出など含めた遵法性と管理体制に主眼を置き、不備、不足な点の指摘及びその改善指示を実施</li> </ul>	監査での重大な指摘なし 廃棄物適正処理推進	監査での重大な指摘なし 廃棄物適正処理推進	監査での重大な指摘なし 廃棄物適正処理推進
	環境関連法遵守	監査での重大な指摘なし	監査での重大な指摘なし	監査での重大な指摘なし					

## 環境会計

ケイミューでは環境保全にかかわるコストと経済効果を定量的に把握しています。2016年度の環境保全にかかわる設備投資として公害防止関連では、大気、水質、臭気などコンプライアンスにかかわる投資、地球環境保全関連ではボイラーやコンプレッサーの高効率機器への切り替え、照明のLED化、オゾン破壊係数の低い冷媒を使用した設備への切り替えを推進し、投資額合計は4億2,600万円(前年比5%減)となりました。また、省エネルギー、産廃処理費用削減などによる企業内経済効果額が2億4,800万円(前年比約36%減)となりました。

2016年度企業内経済効果(製造事業所・開発部門) (単位:百万円)

項目	経済効果	主な内容	
費用削減	エネルギー費用の削減	218	乾燥機の断熱効果、排気経路見直し乾燥、養生条件の適正化 コンプレッサー圧力設定の適正化 高効率照明、機器への更新
	廃棄物処理費用の削減	12	廃棄物リサイクル (廃塗料、脱水汚泥、スクラップ材、再生材料など)
	上下水費用の削減	2	
	包装材費用の削減	1	
	物流費用の削減	0	
収益	事業場廃棄物のリサイクルにかかわる有価物売却益	15	金属廃棄物や廃油の有価物化、 バイオマス発電の燃料として 木屑の有価物化
	使用済み製品リサイクルにかかわる有価物売却益	0	
合計	248		

2016年度環境保全コスト(製造事業所・開発部門) (単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	投資額	経費
事業エリア内コスト	公害防止コスト	213	294
	地球環境保全コスト	184	164
	資源循環コスト	2	357
上下流コスト	使用済み製品の回収・リサイクル・適正処理・外部団体への委託費用	0	3
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの整備・運用、情報開示、環境広告、従業員教育など	0	200
研究開発コスト	技術開発コスト	0	9
	包装・物流開発コスト	0	0
社会活動コスト	環境保全を行う団体や地域住民が行う環境活動などへの寄付と支援	0	0
環境損傷対応コスト	過去の汚染(地下水、土壌など)に関する調査及び対策など	27	6
合計		426	1,033

※設備投資額、費用額において、全額を環境保全コストと判断できない場合は、差額集計あるいは比率集計(按分集計)を行っています。  
経費は人件費と設備投資の減価償却費及び費用を含んでいます。